

5つの商店会連携による交流サロン設置と商店街物語の作成

能 都 町 商 工 会

機関名	能都町商工会		
所在地	石川県鳳至郡能都町字宇出津ト44-4		
電話番号	0768-62-0181		
地域概要	(1)管内人口 11千人	(2)管内商店街数 5商店街	
事業の対象となる 商店街の概要	(1)商店街数 5商店街	(2)会員数 124商店	
	(3)空店舗率 7%	(4)大型店空き店舗数 1店	
商店街の種類	1. 超広域型商店街 2. 広域型商店街 3. 地域型商店街 4. <u>近隣型商店街</u>		

【事業名と実施年度】

平成15年度	活性化対策事業	<ul style="list-style-type: none"> ・交流サロンの設置 ・商店街物語（冊子）の作成 ・交流人口増加調査 ・個店経営強化及び商店街事業指導
	総事業費	4,666千円

【事業実施内容】

1. 背景

能都町は、石川県は能登半島に位置し、人口11千人、面積115.46k㎡という小さな町。能都町は、昭和30年3月25日、当時の「宇出津町」「小木町」「神野村」「三波村」の4町村が合併してできた町で、その後小木町の一部が分離し、「鶉川町」が編入され、現在の能都町が形成されたのは昭和31年4月。能都町は（名前の由来は）、能登半島の都になることに願いを込めて「能都町」と命名された。

当町では、中心市街地活性化基本計画に基づき、道路拡幅やモデル店舗の創出等の各種ハード、ソフト事業に取り組み、まちづくりを推進している。

これらの取り組みの一環として、中心市街地を一つの商業集積とみなし、近郊に進出した大型商業集積等との差別化を図るため、平成14年9月より商店街マネージャーを採用した。平成14年度において、商店街マネージャーは、まんなか市等のイベント、おかみさん会の活動、商店街活動全般に関わる指導を行ったほか、平成14年12月から15年2月に実験的に運用した能都町地域通貨「キリコ」の運営支援等を行った。

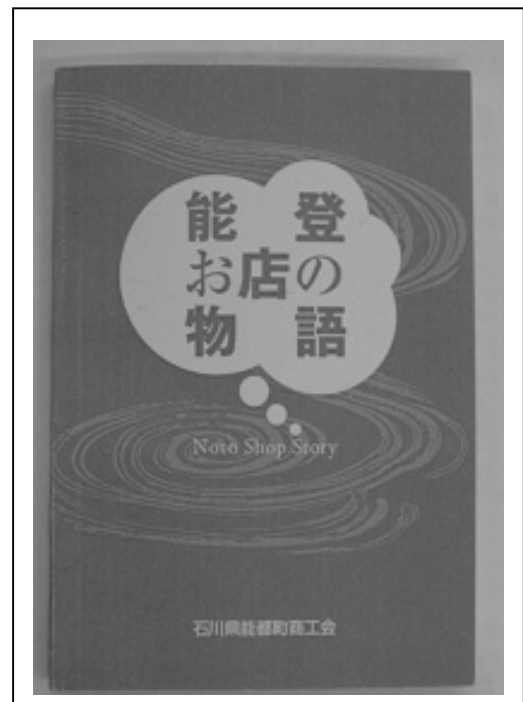


能都町の位置

2. 事業内容

中心市街地商店街を一つの商業集積として捉え、地域ニーズに沿った各種ハード、ソフト事業をマネジメントし、近郊の大型商業施設など他の商業集積との差別化を図り、中心市街地商店街の活性化につなげるため、中心市街地に位置する5つの商店会が連携して、コミュニティビジネスの拠点及び交流拠点の整備・運営に関して専門的スキルを有するマネージャーを常駐し、次の事業を実施した。

- (1) 交流サロンの設置、商店街物語の作成
 - ①物語性を持ったパネル作成
 - ②商店街紹介冊子作成
 - ③商店街内の空き店舗を活用した交流サロンにおいてパネルを展示
- (2) 交流人口増加調査事業
 - ①能登空港を利用した方を対象に、外からの意見をアンケート調査
 - ②通行量調査の実施
- (3) 個店経営強化及び商店街事業の指導
 - ①個店経営強化に向けた巡回による相談・アドバイスの実施
 - ②商店街事業に対する指導



「能都お物物語」(商店街物語)

【 効 果 】

1. 商店街の認知度

物語性をもった商店街紹介冊子作成やパネルでの紹介などで、認知度が向上した。

2. 来街者の行動

能登空港を利用した方を対象にアンケート調査し、来街者の行動や要望をつかむことができた。

3. 個店の強化

商店街の個店に対する巡回相談・アドバイスの実施により、個店の強化につながった。

交流サロンは、商店街の人と情報の交流拠点としての役割が期待されており、お客様に対する情報提供の一環として、平成15年度までに約40店舗作成した商店街のお店の物語を、今年度を含め将来的にも充実し、継続していく予定である。



「能都お物物語」から長生堂

【 課 題 ・ 反 省 点 】

・PR

広域へのPR不足が感じられる。広報手段としてどのような方法が良いか検討していきたい。

なお、中心市街地活性化基本計画に基づく「まんなか市」は、毎月15日の定期的開催により定着しており、「おかみさん会」も道路拡幅事業への協力や先進地へ出向いての勉強会を実施するなど、その活動の幅を広げつつある。また、地域通貨「キリコ」については、その発行方法等について検討中である。

【 事 業 の 実 施 ポ イ ン ト 】

専門的スキルを有するマネージャーの指導が事業推進に有効である。

【 関 連 U R L 】

能都町商工会 <http://www.noto-net.jp/>

能都町 <http://www.town.noto.ishikawa.jp/>

※能都町は、平成17年3月1日より内浦町、柳田村と合併し、能登町となります。



「能都お物物語」から干場金物店